

# 北部九州を中心とした重要伝統的建造物群保存地区等における環境物件に関する調査

大阪芸術大学 建築学科 教授 杉本真一

## <研究目的>

昭和50年の文化財保護法の改正によって伝統的建造物群保存地区の制度が発足し、城下町、宿場町、門前町など全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになった。国は市町村からの申し出を受けて、特に価値が高いと判断したものを重要伝統的建造物群保存地区に選定している。

「伝統的建造物群保存地区」とは、伝統的建造物群及びこれと一体をなしてその価値を形成している環境を保存するため、(中略)市町村が定める地区をいう。」(文化財保護法 第九章 第百四十二条より)、「国は、重要伝統的建造物群保存地区の保存のための当該地区内における建造物及び伝統的建造物群と一体をなす環境を保存するため特に必要と認められる物件の管理、修理、修景又は復旧について市町村が行う措置について、その経費の一部を補助することができる。」(同上 第百四十六条より)、保存地区には「伝統的建造物群と一体をなす環境」も含めて保存し、「管理、修理、修景又は復旧」することが求められている。ここでの環境とは、「これと景観上密接な関係にある樹木、庭園、池、水路、石垣等を環境物件として特定します」(「歴史を活かしたまちづくり」文化庁2014年より)とあるように、重要伝統的建造物群保存地区にとっては重要な要素である。

本研究は、北九州地方の7地区を中心に、建造物の影に隠れて着目されることの少ない環境物件が、どのような状況にあるのかを調査し、明らかにすることを目的とした。

## <研究方法>

調査は以下の7地区について行った。

- ① 福岡県うきは市筑後吉井(在郷町)
- ② 福岡県うきは市新川田籠(山村集落)
- ③ 佐賀県有田町有田内山(製磁町)
- ④ 長崎県長崎市東山手(港町)
- ⑤ 長崎県長崎市南山手(港町)
- ⑥ 大分県日田市豆田町(商家町)
- ⑦ 大分県杵築市北台南台(武家町)

研究の最初として各地区の文化財課などに問い合わせ保存計画書を収集し、次に現地調査を行った。

## <分類について>

各地区の保存計画書を分析してみると、指定する物を大きく伝統的建造物と環境物件に分け、さらに伝統的建造物を建築物と工作物に分けている場合が多かった。地区によっては環境物件ではなく必要物件と呼ぶ場合もあった。呼び方は違っているが、各地区とも3つ(建築物、工作物、環境物件)に分類している。しかし振り分けは各市町村に委ねられているため、石垣など、工作物と環境物件の振り分けが地区によって多少のばらつきが認められた。

## <調査結果> (各地区の特徴)

- ① うきは市筑後吉井(在郷町)：福岡県南部の筑後川中流域に位置するうきは市の中心部筑後吉井には、在郷町として多くの建造物が残されており、その

敷地内の庭が特徴ある環境物件として指定されている。筑後川から引いた水が町中の水路を豊かに流れ、汲場・石積護岸40件も特徴的である。

- ② うきは市新川田籠(山村集落)：うきは市南部山間地に集落が点在しており、段々畑が多く残されている。川の水を畑に送るための古くからの井手及び堰と池が多数環境物件として指定され、また段々畑の石垣約900カ所も特徴を示している。
- ③ 有田町有田内山(製磁町)：焼き物の町として知られる保存地区は、有田町の東部に長く延びている。焼き物で財を成した民家と工場が多く残され、環境物件の特徴を示しているのはドンバイ塀である。ドンバイ塀は登窯の内壁に使われた耐火レンガ(トンバイ)の廃材を赤土で固めたもので、廃棄する焼き物の一部などもアクセントとして入っており、他では見ることができない特徴を示している。また石造の灯籠や像も多く指定されている。
- ④ 長崎市東山手(港町)：オランダ坂のあることで有名な地区で、活水女子大学と海星学園とその西側の洋館群が含まれている。環境物件としてはオランダ坂に代表される石畳の指定がまず特徴として挙げられる。その他に居留地時代の名残としての石の居留地境や地番境、石段、石溝、石垣、レンガ塀なども多く指定され、保存されている。広い地区ではないが、樹木も多く指定されている。石畳石段12、石溝7、石垣16、石柵4、居留地境・地番境8、樹木39。
- ⑤ 長崎市南山手(港町)：重要文化財旧グラバー邸を含む多くの洋館が指定物件となっているグラバー園とその南西に広がる地区であり、東山手地区同様石材を使用したものが非常に多く指定されている。石畳石段36、石溝16、石垣31、石柵12、居留地境・地番境44、樹木64とどれをとっても東山手地区より多く、居留地時代の特徴がよく示されている。
- ⑥ 日田市豆田町(商家町)：日田市は、大分県の北西部の県境にあって、筑後川上流域に位置する。商家町として豪商の居蔵造の町家が多く残り、保存地区としては、東西約360メートル、南北約470メートルと狭い方である。水路が豊かで、水路護岸42件、水汲み場7件、石橋5件が特徴的である。樹木31件、庭園10件は面積の割には指定数が多いが、特徴的とはいえない。
- ⑦ 杵築市北台南台(武家町)：杵築市は、大分県の北東部、国東半島の南部に位置し、なだらかな山々に囲まれ、東・南は別府湾に面している。この地区は武士の居住区であり、近世の旧屋敷地割りを良く残し、武家住宅も残されている。環境物件としてはその武家屋敷の庭園や生垣・石垣・土塀がこの地区の特徴をよく示している。

過年度の近畿地方、中国地方、四国地方に続きデータを収集することが出来、比較することによる特徴が見えてきた。